

平成30年5月30日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463275

研究課題名(和文) グローバル時代に高度看護実践を支える看護管理教育のありかた

研究課題名(英文) Global Nursing Management Education

研究代表者

手島 恵 (TESHIMA, Megumi)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：50197779

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、グローバル時代における専門看護師(CNS)教育に求められる看護管理の教育内容について調査を行い、今後のCNS教育に資することを目的とする。

12領域のCNSを無作為抽出し質問紙を郵送し152名の回答(回収率35.2%)を分析対象とした。46.6%がグローバル化を感じており、看護管理の基礎的知識、組織経営と変革についての教育内容が求められていた。この内容を機縁法で得た7名のCNSに提示してインタビューを行った。これらの結果から、現場の課題を組織・社会から見る能力、異文化看護、およびイノベーターとして必要な知識技術などを強化すべきであり、継続教育で取り組む必要性が明らかになった。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this research is to identify the educational contents required for Certified Nurse Specialist: CNS education in the global age and to contribute to future CNS education.

Randomly extracted the CNS of 12 areas and mailed a questionnaire to 152 respondents (collection rate 35.2%) as analysis targets. 46.6% felt globalization, and the basic knowledge of nursing management, educational content on organization management and transformation was required. Seven CNSs were selected via snow ball sampling and interviewed while showing the survey results. From these results, identified the competencies to strengthen, such as reviewing the field from the organization/society, transcultural nursing, advanced knowledge and technology required as innovators, and that the necessity to work on continuing education.

研究分野：看護管理学

キーワード：グローバル化 専門看護師 大学院教育 看護管理 継続教育

1. 研究開始当初の背景

平成6年に専門看護師制度が設立されて以降、平成15年以降、進展し続ける医療制度改革や、東日本大震災後に示された成長戦略に位置づけられた医療のグローバル化は急速にすすんでいる。そのため、急速に変化する医療をとりまく状況の中で、高度な実践力を修得した専門看護師が自律的に専門性を発揮できるようにするためには、従来の直接ケアに関する教育と合わせて、高度看護実践を支える看護管理教育のありかたの検討が急務である。

例えば、「新成長戦略～『元気な日本』復活のシナリオ～」(平成22年6月22日閣議決定)では、国際医療交流(外国人患者)が国家戦略の一つとして位置づけられた。医療機関の国際認証(JCI: Joint Commission of International)は、平成20年に最初の病院が認証を受け、現在では25の医療機関が認証されている。このような医療のグローバル化の急速な進行で、がんの医療をはじめとする先端医療分野では、アジアを中心とした海外からの患者受け入れが行われるようになった。

2. 研究の目的

この研究は、既に活躍している専門看護師から、グローバル時代における専門看護師教育に求められる看護管理の教育内容について調査を行い、今後の専門看護師教育課程における教育に資することを目的とする。

3. 研究の方法

専門看護師のおかれている現状を明らかにし、教育内容を検討するために、まず、質問紙調査を行う。次に、協力の得られた専門看護師にその分析結果を提示しフォーカスグループインタビューを実施する。

(1) 質問紙調査

調査期間：倫理審査承認後～平成30年3月末。

調査対象：専門看護師として日本看護協会に情報を公開している1862名のうち、所属を公開していない180名を除き、12領域の専門看護師の50%を無作為抽出し、調査票を所属先の住所に送付する。

調査内容：看護管理教育の調査に用いられている調査票をもとに調査票を作成し、グローバル化により必要と考えられる教育内容について質問し、分析する。

(2) フォーカスグループインタビュー

実施期間：平成30年3月

対象者：現在、専門看護師として実践をしている人のネットワーク(領域は問わない)を通して、管理や教育にかかわっている専門看護師の中で、本研究に協力の意向を示した人に、郵送で目的を説明し、同意を得る。(調査票への回答をし

たかどうかは問わない)

調査内容：(1)の分析結果を示し、フォーカスグループインタビュー(FGI)を行い、グローバル時代の高度実践を支える専門看護師教育課程における看護管理教育の内容や方法について、インタビューガイドに基づき、90分程度のFGIを行う。

(5) 倫理的配慮

本研究は研究実施者所属機関の倫理委員会の承認を得て実施した。参加の任意性を保証するとともに、匿名性の保証およびデータ漏洩防止のための安全措置を講じた上で、調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 質問紙調査の結果

調査票の回収結果

専門看護師として日本看護協会に情報を公開している1862名のうち、所属を公開していない180名を除いた1682名、12領域の専門看護師を無作為抽出し、450名の所属先住所に送付し(未達21件)期日までに返送された152名の回答(回収率35.2%)を分析の対象とした。

対象者の属性

属性1～4に対象者の属性を示した。

平均年齢、42.95歳、看護師として経験年数、19.49年、専門看護師としての経験年数、5.32年であった。

男性は11名(7.2%)、女性141名(92.8%)で、職位は看護師が62名(40.8%)と最も多く、次いで主任、師長であった。

専門看護師としての専門領域で最も多かったのは、がん看護55名(36.2%)、次いで精神看護26名(17.1%)であった。感染看護、遺伝看護、在宅看護は回答がなかった。

対象者のうち、46.6%が日常的にグローバル化を感じると回答していた。

属性1. 年齢・経験年数

| 項目            | 平均    | 範囲      | SD   |
|---------------|-------|---------|------|
| 年齢            | 42.95 | 31 - 57 | 6.35 |
| 看護師としての経験年数   | 19.49 | 7 - 35  | 6.45 |
| 専門看護師としての経験年数 | 5.32  | 0 - 25  | 3.81 |

属性2. 性別

男性 11名 7.2%  
女性 141名 92.8% 合計 152名

属性3. 職位

| 職位  | 人数 | %    |
|-----|----|------|
| 看護師 | 62 | 40.8 |
| 主任  | 26 | 17.1 |
| 副師長 | 21 | 13.8 |
| 師長  | 26 | 17.1 |

|       |     |     |
|-------|-----|-----|
| 副看護部長 | 4   | 2.6 |
| その他   | 7   | 4.6 |
| 無回答   | 6   | 3.9 |
| 合計    | 152 | 100 |

#### 属性 4. 専門領域

| 領域        | 人数  | %    |
|-----------|-----|------|
| がん看護      | 55  | 36.2 |
| 精神看護      | 26  | 17.1 |
| 地域看護      | 4   | 2.6  |
| 老年看護      | 9   | 5.9  |
| 小児看護      | 11  | 7.2  |
| 母性看護      | 4   | 2.6  |
| 慢性患者看護    | 17  | 11.2 |
| 急性・重症患者看護 | 5   | 9.9  |
| 感染看護      | 0   | 0    |
| 家族支援看護    | 8   | 5.3  |
| 遺伝看護      | 0   | 0    |
| 在宅看護      | 0   | 0    |
| 合計        | 152 | 100  |

#### 在学中学んだ程度と強化する必要性の比較

在学中学んだ程度と強化する必要性について 20 項目の質問に対する回答の平均の上位 5 位を示した。学んだ程度、強化する必要性に共通していたのは、倫理的意思決定、意思決定論であった。

| 位 | 学んだ程度     | 強化する必要性 |
|---|-----------|---------|
| 1 | コンサルテーション | マネジメント  |
| 2 | 論理的意思決定   | 質の改善    |
| 3 | 意思決定論     | 論理的意思決定 |
| 4 | リーダーシップ   | 医療・看護経済 |
| 5 | 組織論       | 意思決定論   |

#### 年齢、経験年数別、在学中学んだ程度、強化の必要性の比較

経験年数別、在学中学んだ程度、強化の必要性についてカイ二乗検定を行ったところ、専門看護師の経験年数とキャリア開発 ( $p=.009$ )、管理における研究の活用 ( $p=.000$ )、リーダーシップ ( $p=.017$ ) との有意な関連があった。

#### 自由記述の内容分析

自由記述の内容分析結果を、質問 1~3 に示す。

#### 質問 1. グローバル化を感じる理由

- ・国際的な基準に基づく EBP の実践
- ・医療・看護方法改善のための海外知見探索
- ・海外の医療食や関連企業との連携
- ・海外の研究者との共同研究
- ・留学生への日本のシステムの説明
- ・研修生・外国人看護師の受け入れと指導
- ・外国人患者の増加と異文化看護体験
- ・病院の国際認証機関 (JCI) 受審

#### 質問 2. 大学院で学んだ何が役立っているか

- ・政策・看護政策論・政策提言の方法
- ・経済論
- ・経営学
- ・組織学
- ・システム論
- ・情報工学
- ・リーダーシップ
- ・マネジメント
- ・コンサルテーション
- ・国際看護学・外国の看護制度
- ・母性看護学での異文化ケア
- ・地域看護学
- ・文化・異文化に関する学習内容
- ・海外文献レビューの方法
- ・国際学会参加や海外ナースとの交流
- ・思考過程・自律的学習方法

#### 質問 3. さらに学ぶ必要がある内容

##### アカデミックスキル

- ・語学力：英語（会話・文献購読・プレゼンテーション）、英語以外の外国語
- ・研究方法（統計分析・臨床研究・成果を示す研究方法・ビッグデータの活用）
- ・思考法（ロジカルシンキング・思考法・発想法・戦略的思考）
- ・コミュニケーション
- ・情報テクノロジーの活用

##### 組織経営と変革

- ・イノベーション・変革理論と方法
- ・組織論・組織分析・組織開発・組織変革
- ・経営学（経営分析。マーケティング・経営戦略）
- ・医療の質評価と改善
- ・チームビルディング
- ・産学官連携・他組織との協働

##### 看護管理の基礎的知識

- ・看護管理（管理的視点・看護管理行動）
- ・マネジメント・リーダーシップ
- ・認定看護管理者ファーストレベルの内容
- ・保健師教育の内容

##### その他

- ・国際看護・異文化理解
- ・医療・看護の政策と経済（国際医療政策 AP の役割拡大）
- ・教育学・人材育成・キャリア開発

##### 臨床実践力の向上

#### フォーカスグループインタビューの内容分析

機縁法で 7 人の専門看護師の協力を得ることができた。語られた内容を分析したところ、専門看護師には、マネジメント、リーダーシップ能力が必要であり、専門領域の教育と共通科目の両方のアプローチが必要。現場で管理を経験しているわけではないので、管理を学んでもイメージがつかないのではないかという課題が示された。

グローバル化の影響として、多様性を知るのみならず、折り合いをつけて統合する能力

や、看護は文化にかかわるので意思決定支援や倫理的な支援は、その人たちの大切にしてきた習慣・価値観を大切にしながら支援する能力の必要性が示された。

看護管理学を専門する人と専門看護師を目指して学ぶ人と目的が異なるので、学ぶ目的にひきつけられる授業の展開が必要であること、グローバル化は急速に進展しているが、正規科目として単位数を増やすのは現行では難しいため、大学院修了後、リフレッシュセミナーや、専門看護師の更新の際などに段階的に管理やグローバル化に必要な内容を e-learning など学べる取り組みが必要となることが明らかになった。

## 5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

手島 恵 (TESHIMA, Megumi)  
千葉大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号：50197779

### (2)研究分担者

酒井郁子 (SAKAI, Ikuko)  
千葉大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号：10197767

上泉和子 (KAMIIZUMI, Kazuko)  
青森県立保健大学・健康科学部・教授  
研究者番号：10254468

中村伸枝 (NAKAMURA, Nobue)  
千葉大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号：20282460

錢淑君 (CHIEN, Shukukun)  
千葉大学・大学院看護学研究科・准教授  
研究者番号：50438321

吉田千文 (YOSHIDA, Chifumi)  
聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号：80258988

和住淑子 (WAZUMI, Yoshiko)  
千葉大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号：80282458